第116期 報告書

TOYOTAレポート

2019年4月1日から2019年9月30日まで

第13回（2019年）
トヨタ夢のクルマアートコンテスト 受賞作品より

Worldwide
Olympic Partner

Worldwide
Paralympic Partner

香川編集長のTVCMをご覧になった方も多いかと思いますが、トヨタイムズにはウェブサイトがございます。そちらではトヨタの企業活動や社長の豊田章男の活動に関する記事を掲載しております。今までに掲載した主な記事を、このページにて紹介いたします。ウェブサイトもぜひご覧いただければ幸いです。

https://toyotatimes.jp/

上記URLもしくは右記QRコードよりご覧いただけます。

2019年1月より「トヨタイムズ」が始まりました。トヨタイムズは、これまでの社内報やイントラネットといった閉じられた世界から飛び出し、テレビやラジオ、新聞、インターネットといったメディアを使ったオープンな世界に飛び込んでいく、「新たなインターナル・コミュニケーション」への挑戦です。未来のモビリティ社会の実現に向けて、トヨタのありのままの姿を株主の皆様にもできる限りオープンにしていきたいと思います。

1 ：INSIDE TOYOTA

社内行事も含め、今まで、あまり報じられなかったトヨタの内側をお伝えいたします。

2019.08.20 UPDATE!

#30「タテシナ会議はじまる」～交通事故死傷者ゼロへの挑戦～（前編）

聖光寺は交通安全祈願のためにトヨタとトヨタ販売店が建立したお寺。毎年夏季大祭を開き、今年で49回目を迎える。

2019.10.09 UPDATE!

#36 秋の交渉のゆくえ トヨタ労使は「共通の基盤」に立てるのか？　～冬賞与回答に込めた想い～

異例となる秋の労使協議会。豊田が語ったのは、1962年に会社と組合が結んだ「労使宣言」に対する想いだった。

2 ：スペシャル

特別なゲストとのトークなど、トヨタイムズならではのオリジナルコンテンツをお届けいたします。

2019.09.04 UPDATE!

【第1章】鈴木修会長×豊田章男社長（聞き手 小谷真生子）「ここだけの話」

100年に一度の大変革の時代。生き抜くための「経営力」について鈴木会長と豊田社長が語る。

3 ：特　集

イベントや発表案件に関わらず、皆様にお伝えしたい様々なテーマについて、特集としてお届けいたします。

2019.06.24 UPDATE!

連載企画：『継承者』～創業の原点を考える～ その1

トヨタらしさを取り戻すための闘い。豊田が言う「トヨタらしさ」とは何か。何を取り戻さなければならないのか。

4 ：香川編集長

香川編集長が、トヨタのリアルを現場取材。TVCMでは伝えきれない内容をウェブサイトにてお届けいたします。

2019.09.06 UPDATE!

#22 自動運転に上手い、下手がある!?（東富士研究所前編）

トヨタは日本でも自動運転を研究している。TRIと何が違うのかを探るために、編集長は東富士研究所へ向かった。

5 ：モリゾウのつぶやき

経営者、ドライバー、ときどきラジオDJ。様々な顔を持つモリゾウこと豊田社長が日々感じていることを本音でつぶやきます。

2019.06.27 UPDATE!

#15「下山テストコース」

新たにできたテストコース。第1、第2が未完成の中、第3周回路、通称・カントリー路がまず出来たその意味は？

INSIDE TOYOTA

大切にしたい2つの価値

～株主総会：豊田章男からのメッセージ～

6月13日、豊田市の本社・本館ホールほかにて、第115回定時株主総会が開催されました。今回の総会には過去最高となる5,546人の株主様がご出席されました。議案の採決に入る前、議長である豊田社長は、自身の今の思いを次のように伝えました。

伝えたいことは「危機感」ではなく「価値観」

私なりにこの1年間を総括いたしますと、「トヨタらしさを取り戻す闘いをしながら、同時に未来に向けてトヨタのフルモデルチェンジにも取り組んだ1年」ということになります。

今の私の気持ちを正直に申し上げますと、「トヨタらしさを取り戻すということはこんなにも難しいことなのか」「平時における改革がこんなにも難しいものなのか」ということを痛感する毎日でございます。

モビリティカンパニーに向けたフルモデルチェンジは私の在任期間中にできるものではないと思っております。しかし、トヨタらしさを取り戻すこと、トヨタらしい企業風土・文化の再構築については、社長就任以来、私自身がこれまで最も時間を費やし、苦労してきたことでもありますので、何としても私の代でやりきる覚悟でおります。

今年の決算発表の場で、「生きるか死ぬかの闘いの中で、トヨタが死ぬのはどういう時か」というご質問をいただきました。これに対し私は、「トヨタは大丈夫だという意識が社内に蔓延した時」とお答えいたしました。

「危機感をあおりすぎではないか」という声がありますが、私が社内に伝えようとしているのは「危機感」ではなく、「価値観」です。

喜一郎をはじめトヨタのリーダーズは、「お国のために」「お客様のために」「自分以外の誰かのために」という気持ちで、もっといいクルマづくりに愚直に取り組んでまいりました。

常に「何のためにやるのか」を考え、ベターベターの精神でやり方を変えていくことは、TPSの精神そのものであり、トヨタがずっと大切にしてきた価値観です。そもそも、「常にもっとよいやり方がある」と考えている会社に、「大丈夫」という概念はないはずです。この価値観を取り戻すことが、私の言う企業風土改革であり、「トヨタは大丈夫」という慢心を取り除くことにもなると考えております。

価値ということで申し上げますと、もう1つの意味がございます。トヨタの中には、先行技術を開発している人もいれば、市販モデルを担当している人、アフターサービスを担当している人もいます。これは、皆が心を合わせて、クルマの現在、過去、未来における価値を向上させているということだと思っております。世間の関心は未来の仕事に集まりますが、現在と過去の仕事を地道にコツコツと積み上げ、守っている人がいるからこそ、未来の仕事ができるのです。お互いに「ありがとう」という感謝の気持ちで仕事ができれば、それはクルマだけでなく、トヨタという企業の価値を向上させることにもつながると私は考えております。

トヨタらしさという価値観を取り戻し、トヨタのクルマと企業の価値を向上させていくこと。周りからは「危機感をあおりすぎだ」と言われたとしても、私はこの2つの価値に、とことんこだわっていきたいと思っております。これからも株主の皆様のあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主からトヨタへの主な質問

トヨタイムズ

Q ここのところ、高齢者が運転するクルマが暴走して歩行者をはねたりするような、大変痛ましい悲しい交通事故が頻繁に報道されています。
運転者がミスしてもケガをさせない、ちゃんと止まってくれる防衛運転ができるクルマの技術開発が、どこまでできているか教えてほしい。

豊田社長

自動運転などの未来に向けての技術開発を進めている一方で「今、困っている現状をどうにかしてほしい」という方もいらっしゃいます。日本には、クルマがなければ成り立たない地域がたくさんあるとも思います。それぞれの地域の困りごとをサポートできるような施策も現在検討中ですので、今解決できることも、未来への技術開発も、両方を進めてまいりたいと思います。交通事故死傷者ゼロになるまでの闘いになりますので、やりとげるまでよろしくお願い申し上げます。

吉田副社長

後付けの「踏み間違い加速抑制システム」を昨年末にプリウスとアクアから導入をはじめました。年内に12モデルに展開をしていこうと考えています。

ギル・プラット フェロー • 先進技術の開発について

私たちの夢は、安全に、悲惨な事故を回避するとともに、死亡や負傷を予防することです。同時にそういった事故を起こすドライバーにとっても、悲惨な経験を予防したいと思っています。また、安全な運転ができなくなった高齢者に、自由な移動によって自立を維持できるようにしたいと思います。

Q 豊田社長の次に社長になる方はどういう方なのか。
すでに次の社長は役員の皆さんの中に候補者がいて、英才教育などを受けられているのか、あるいは、トヨタ自動車以外から連れてこられるつもりなのか。もう１つ、豊田社長の代で「会社をこうしたい」という思いがどれぐらい達成されているのか。どれぐらい満足されているのか。
以上２つを聞かせてください。

豊田社長

私は社長就任以来、「もっといいクルマをつくろうよ」「町いちばんの会社を目指そう」と言い続けてまいりました。これは別の言葉で申しますと、「創業の原点に立ち戻ろう」ということだと思っております。今年の春の交渉の最後に、佐吉翁の遺訓である豊田綱領の意味を私なりに解説させてもらいました。私が皆に伝えたかったことは、トヨタに勤める一人ひとりが自分のことを一番に考えるのではなく、「お国のために」「お客様のために」「自分以外の誰かのために」という気持ちで仕事をしてほしいということです。ここまで大きくなったトヨタは、もはや社会の公器だと思います。豊田という姓があろうがなかろうが、誰が社長になっても大切なことは、創業の原点を見失わず、未来の笑顔につながることを年輪を刻むかのごとく積み重ねていく、ということだと思っております。創業の原点を次の世代に伝えていくということにおいては、ここにいる全員、全従業員が、継承者であると思っております。

友山副社長

クルマをつくる会社から、移動の価値、その周辺の様々なサービスを提供する企業に変わっていく。そのために様々な異業種の企業と提携していく。そういうことを続けています。

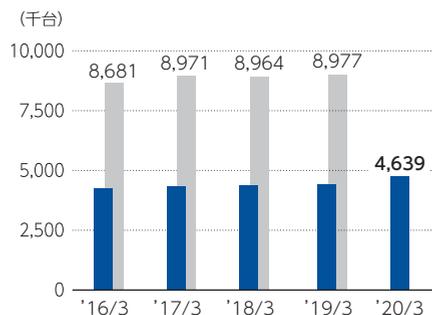
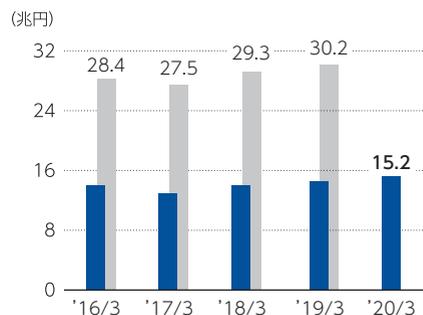
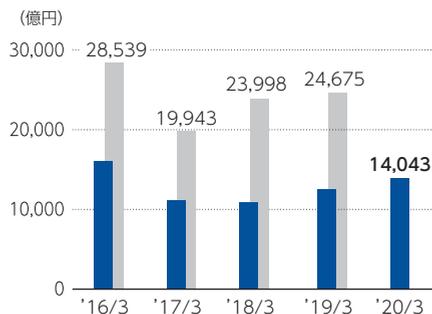
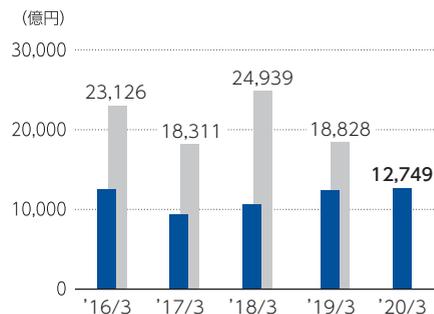
河合副社長 • 社長の後継者について

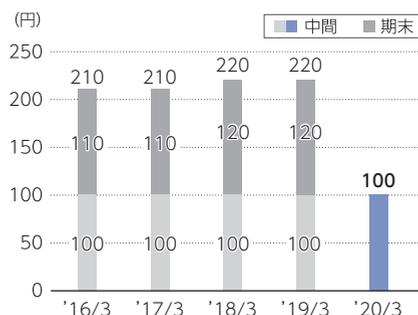
自分が目指す人を超える努力と挑戦をし続ける。また、部下を自分を超える人材に育てる。すべての人がこんな考えで切磋琢磨すれば、その中から次期社長が必ず出てくると思っています。

財務ハイライト

■前半期 ■通期

連結経営成績

連結販売台数

売上高

営業利益

当社株主に帰属する当期純利益

株主還元

普通株式1株当たり配当金(年間)

(注)第1回AA型種類株式については所定の配当を実施いたします。

自己株式の取得額(株主還元)

* 第1回AA型種類株式発行による希薄化回避分3,499億円を除く

トヨタ自動車 決算 検索

より詳細な財務情報をご希望の方は、当社ホームページに掲載している決算短信をご利用ください。
https://global.toyota/jp/ir/financial-results/

トヨタは、オリンピック、パラリンピックにおけるモビリティ、移動支援ロボット、モビリティサービスのカテゴリーのパートナーです。

トヨタ自動車株式会社
https://global.toyota/jp/